



機
鋒

TOUGEN NEWS

3月1日(日)

発行所 桃源院
発行責任 桃源院 広報部
〒191-0065 日野市旭が丘3-1-4
編集 奥野憲昭 奥野麻子
042-583-1133
<https://www.momo.or.jp>

「先祖あつての我」「三世の因縁」

先祖に感謝する行いは、日本の文化や価値観を象徴するものです。これらの言葉を通じて、自分のルーツや命のつながりに思いを馳せ、日々感謝の心を持ち続けることが大切にされています。

日本の伝統的な価値観を表すものに「春彼岸」があります。

春彼岸とは、春分の日を中心に前後3日間を含めた7日間(2026年は3月17日～23日)に行われる日本特有の仏教行事です。この期間は、先祖供養を目的とし、自然と人の調和を感じる時期とされています。「彼岸」という言葉は、サンスクリット語「パーラミター(波羅蜜多)」の訳で、「悟りの境地に至る」という意味です。煩惱に満ちたこの世(此岸)から悟りの世界(彼岸)へ渡る象徴的な期間とされます。

春彼岸のお墓参りは、単なる儀礼ではなく、家族の絆を深める大切な機会です。墓掃除や供え物の準備を家族で協力して行うことで、感謝や思いやりの心が育まれます。また、子どもたちに先祖や家族の歴史を伝える場としても重要であり、文化の継承に役立っています。

「先祖あつての我(せんぞあつてのわれ)」という諺は、「今の自分があるのは先祖のおかげである」という意味です。自分の存在や家族、そして現在の生活が、過去の先祖たちの努力や命のつながりによって成り立っていることを表しています。日本では、先祖を敬う心が大切にされており、お盆や法事などの行事を通じて感謝の気持ちを表します。この諺は、家族や社会の基盤が先祖の積み重ねによって築かれていることを強調しており、自分一人で生きているのではなく、先祖から受け継いだ命や知恵、文化があるからこそ今の自分が存在するという考え方です。先祖に感謝することで、謙虚さや敬意の心が養われ、日々の生活にも感謝の気持ちを持つことができます。

その他にも、先祖に感謝する諺として「三世の因果」があります。これは、過去・現在・未来は因果でつながっているという仏教的な考え方であり、先祖の行いが今の自分に影響し、自分の行いが未来の子孫に影響を与えるという意味です。また、「親の恩は山よりも高く海よりも深し」という諺は、親や先祖から受ける恩は計り知れないほど大きく深いことを表しています。

現在でも「ご先祖様を敬う」ことは大切にされていますし、彼岸やお盆という節目に家族や血縁のつながりを意識することで、自分のルーツや価値観を見直す大事なきっかけにもなります。

「厳有院殿」は、江戸幕府第4代将軍 徳川家綱の法号(戒名)で、寛永寺に造営された霊廟に関連する名称です。

生没年：寛永9年(1632年)～延宝8年(1680年) 将軍
在職：慶安4年(1651年)～延宝8年(1680年)
戒名：厳有院殿贈正一位相国公

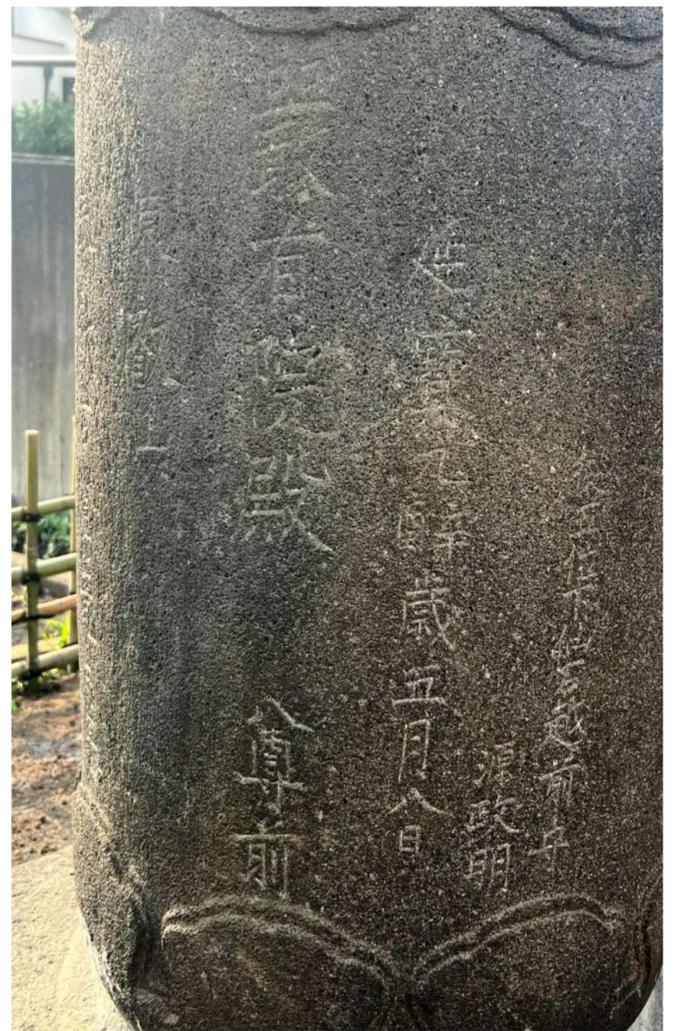
氏名：仙石政明(せんごくまさあきら)
官位：通称：従五位下、越前守
生没年：万治2年(1659年)3月1日生。享保2年(1717年)6月6日没

家系：仙石氏
父：仙石忠俊養父：仙石政俊藩歴：信濃国上田藩第3代藩主
宝永3年(1706年)に但馬国出石藩へ転封、初代藩主となる石高：5万8千石
戒名：真竜院殿徳嚴雄義大居士
墓所：東京都八王子市 大乘寺 → 後に多磨霊園へ改葬

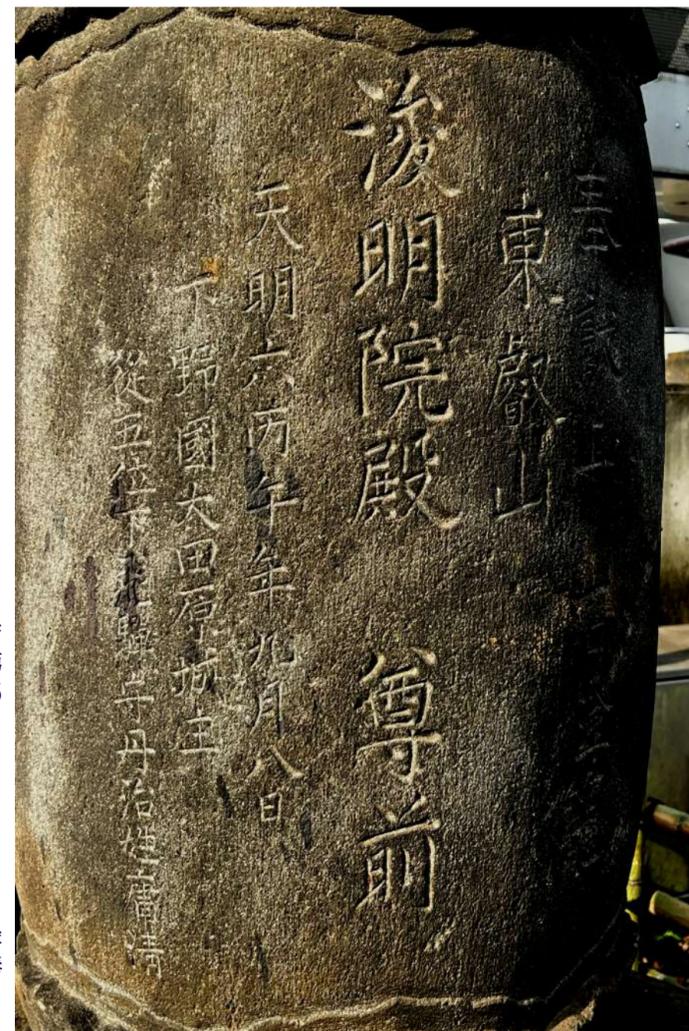
経歴の要点
寛文9年(1669年)：上田藩主に就任(幼少のため実権は養父政俊が握る)
寛文12年(1672年)：従五位下・越前守に叙任。
延宝・天和期：藩財政悪化により改革を試みるが難航
宝永3年(1706年)：但馬出石藩へ転封
享保2年(1717年)：死去、享年59歳

※寛永寺石灯籠との関係：仙石政明は、徳川家菩提寺である寛永寺に石灯籠を寄進した大名の一人とされています。

官位：「従五位下」越前守氏名「源政明」
家紋：九曜紋



「浚明院殿」とは：徳川家継：正徳元年（1711年）～享保7年（1722年）
 將軍在職：正徳6年（1716年）～享保7年（1722年）
 戒名：浚明院殿贈正一位大相国公
 靈廟：上野寛永寺境内に建立された「浚明院殿靈廟」→豪華な装飾を持つ靈廟でしたが、東京大空襲で焼失。現在は「奥院宝塔」「奥院唐門」などが残り、国指定重要文化財となっています。



大田原庸清（おおたわら つねきよ）
 通称：丹治姓庸清（「丹治」は大田原氏の通字）
 生没年：宝暦3年（1753年）6月12日生～享和2年（1802年）8月5日没
 藩主：下野国大田原藩第9代藩主
 官位：從五位下、山城守・飛騨守などを歴任
 戒名：振弘院殿仙峯賢道大居士
 墓所：東京都港区高輪 泉岳寺

経歴：宝暦3年（1753年）第8代藩主・大田原友清の次男として誕生。宝暦6年（1756年）兄、寿清が早世したため、12月に世子となる。明和7年（1770年）從五位下・飛騨守に叙任。安永4年（1775年）父の隠居により家督を継ぎ、第9代藩主となる。享和2年（1802年）江戸で死去（享年50）、跡を長男、光清が継ぐ

家族、父：大田原友清（第8代藩主）正室：松平長孝の娘（美作津山藩主）
 子：光清（第10代藩主）、愛清、清徳 など
 家紋：大田原氏の家紋は三つ巴紋系統（藩主家の象徴）

天明6年（1786年）丙午、寛永寺に石灯籠を奉納した記録があり、銘文には以下が刻まれていた可能性があります：奉獻上石灯籠 東叡山 天明六年丙午九月吉日從五位下 飛騨守 丹治姓庸清



越後国長岡藩主→長岡藩（越後国、現在の新潟県長岡市）を治めた大名。→この時期の藩主は 牧野忠精（まきの ただきよ）。

天明六年丙午→西暦 1786年、干支は丙午。江戸中期、徳川家治の治世。

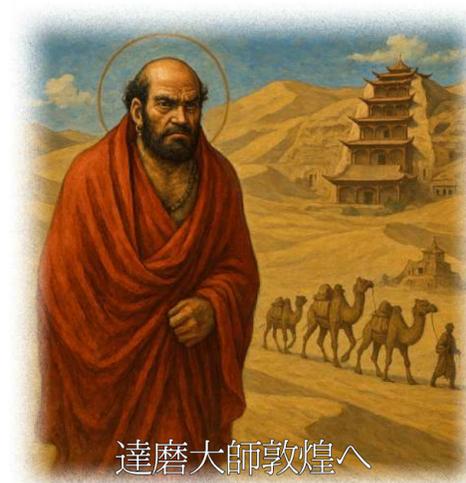
官位： 從五位下、
 越前守家紋：三つ柏紋（牧野家の代表紋）
 藩主在任： 天明年間に長岡藩を統治。
 寄進の理由：徳川家菩提寺である寛永寺への供養・幕府への忠誠の証。
 銘文の推定：奉獻上石灯籠 東叡山 天明六年丙午九月吉日 從五位下 越前守 牧野忠精

菩提達磨

西方より東方への法の伝播

菩提達磨（ぼだいだるま） 『？』五二八』
 波斯国（イラン）或いは南天竺国（南インド）の第三王子に生まれたと伝わる。般若多羅の法を嗣ぎ、中国へ渡来した。嵩山の少林寺にて、面壁して九年間坐禪を続けたと言われている。
 梁（南朝五〇二〜五五七）の武帝（高祖武帝五〇二〜五四九）みずから碑銘を選び、太宗（太宗簡文帝五四九〜五五五）も、円覚大師の諡号をおくり、昭明太子（武帝の長男 文学者）の祭文には聖賢大師の号も残る。禪をインドから中国に伝えたことで、中国の禪宗の始祖と呼ばれる。

達磨大師の伝記や教えについて本格的な研究が始まったのは、昭和九年ごろからです。昭和九年から十一年にかけて、鈴木大拙が敦煌で発見した資料をきっかけに、学界で綿密な研究が進められ、現在に至っています。つまり、実はここ九十年ほどのことにすぎません。それ以前にも研究がなかったわけはありませんが、達磨は実在しない架空の人物だという説もありました。しかし、敦煌出土の資料によってこの説は否定され、新たな研究が多くの学者によって進められています。この新しい研究によって、従来信じられてきた『送法』『碧巖録』や『従容録』『無門関』に登場する達磨は、ほとん



達磨大師敦煌へ

とんが後世の創作であることが分かってきました。禪の「宗門第一の書」とされる『宋高僧伝』『景德伝灯録』『古尊宿語録』などに出てくる達磨も、ほとんどが虚構であり、長年信じられてきた達磨像は、現代の歴史学によってほとんど打ち壊されてしまいました。また、達磨が海を渡って広東近くに着いたという話も疑わしいです。もっと古い文献には、陸路で西域を越えてやってきたと書かれているものもあります。すると、南京で梁の武帝に会って「廓然無聖」や「無功徳」と言った話も作り話だということになります。

そうすると、前号では嘘を書いたのですかと、お叱りを受けそうです。少林寺での有名な「慧可断臂」や達磨の臨終を描いたいくつかの古典も、もちろん虚構であり、「毒を毒と知って服した」などという伝説も信じるに値しません。要する

に、従来の達磨像は、中国で禪が盛んになるにつれて徐々に作られてきたものです。その形成過程についての研究も、最近大きく進展しています。フィクションがいつ、どの学派によって作られ、誰によって伝えられたかという研究です。ともあれ、千年以上前の中国の優れた禅者や祖師たちが、達磨の偉大な虚像を創造し、中国に根付かせ、宋代（鎌倉時代）の祖師たちがこれを日本にもたらし、日本でも文化創



西千仏洞

造の原動力の一つとなりました。ですから、虚像だとしても、幻滅してがっかりする必要はありません。いくら学者たちが推理小説のように旧来の達磨像の史実性を否定しても、その虚像自体の偉大さは少しも損なわれません。



西千仏洞

実際、千年来、優れた祖師たちによって受け継がれ、アジア全域に広まった伝統的な達磨像は、現代学者の考証によっても揺らぐことはありません。史実の達磨は、雄大で深遠な虚像が形成される際の核となった人物です。達磨は、まさに虚像形成の核だったので

その核心、『二入四行論』は、古くから達磨の語録として重要な文献の中に伝えられてきました。参禅者の身心を養う教えとしてだけでなく、現代の歴史学でも最も古く、信頼できる達磨の教えとされています。敦煌の資料によって、その信頼性がさらに確かなものとなりました。ちなみに敦煌は中国の甘粛省の西北端にある県で、古くから東西の民族が集まり、特に仏教が早くから伝わった場所です。